



益々の環境向上を目指す

新しい農環境を目指す

農業の多面的機能支払交付金事業というのが、現在私たちが取り組んでいるものです。農業生産の多面的な機能を生かすことをテーマとしています。

例えば米国の大規模農業では、強力な除草剤とそれに耐える農作物で、省力化効率化を図っています。しかし、日本の農業関係者は、こうしたやり方は安全性が低いと考えています。農地とその周辺環境のバランスを崩すことなく、両者に恩恵をもたらすような仕組みづくりを模索しているのです。

生き物へ優しいまなざし

これらの活動の基本的な考えの大きな柱の一つが「生物多様性」です。農林水産省の資料によれば稲3株の周辺にはミジンコ5千匹、オタマジャクシ35匹、蜘蛛10匹、カブトエビ4匹が生きていると紹介しています。また田んぼと周辺に生息する生き物は、目に見えるだけで5千種類を超すともいわれます。

私たちはそれらをどれだけ知っています。

るでしょうか。正確に把握することは容易ではありませんが、農業や農地の持つ力の一端を考えるきっかけには、なるのではないのでしょうか。

残念ながら生産性や有用性を追求すると、そうした全体のバランスで生かされていることを忘れてしまいがちです。圃場整備事業は自然に近い水路からコンクリート3面張りのものに作り変えました。水害対策の水路改修も、虫の生息する場所を失くしてしまいました。

しかし、何十年もの歳月は、失いかけてきた環境を少しずつとりもどしてきています。虫も数は少ないですが、もうすぐ見ることが出来ます。排水路



田んぼの中でくつろいだ様子を見せるアオサギ (3月30日)

の傍で「カワセミ」見ることもありました。田んぼに水が入ると、その排水をさかのぼってたくさんの魚が遡上してくるようになりました。

次の世代につなげよう

本年はこの事業に取り組む団体の多くが新しい体制構想を作成し、市に出す時期となります。私たち八方原の環境を守る会も同様です。

今までのやり方をなぞって、それを繰り返していくのでは、環境向上にはつながりませんから、今までは違う取り組みが求められます。生物多様性にまつわる取り組みも、可能性の一つです。

数年来、様々な場面で農業者と一般住民の接点を持ちながら、次の取り組み体制について模索を続けているところです。それらを話し合い、地域の意見をまとめたものを出しなさいと言われていたのです。

最終的な狙いは、農業の担い手の確保と農地の保全であることは言うまでもありませんが、それを周辺環境全体から考えるわけです。たくさん生物が生きられる場所、伝統を守りながら、多様な文化を受け入れることのできる柔軟な住環境を目指すことで、次の世代につながるのだと考えます。



検尺とオートレベルを使い、構造物を中心に測定

機器を使えば正確に

八方原自治会の総会が4月15日に開催されました。3月の総会では新年度の人事について決定しました。今回は平成29年度の事業報告と収支決算、それに新年度の事業計画と予算案が提案され、いずれも原案の通り可決しました。

平成29年度は新しいアパートの建設

自治会の共同作業を省力化

で、新たな入居者が増えましたので、自治会費の収入は増加しました。また何年ものあいだの懸案事項だった、山側からの水路の沈砂池の浚渫を行うことができました。これには地域づくり協議会の「法定外公共物整備事業」への助成金が獲得できたことが大きなポイントとなりました。数年前には同様

榎野川の水面と八方原の農地の高さはどういう関係になるのか詳しい資料がありませんでした。

川の水位が上がると「川床が上がった天井川になっている」とか、揚水ポンプの関係では川の水位が下がって上がりにくいのは水位が低いからだというようなことが言われていました。

実際に計測してみようということになり、4月22日にオートレベルを使って測定しました。測定した場所は九田川排水ゲート付近と八方原の排水ゲートの2か所で、川の水面、農地側では農道の数か所を測りました。

詳細は省きますが、農地の方が水面よりも40cm以上高いことが確認できました。

寒かったオゴオリザクラ祭り



4月7日、オゴオリザクラ祭りが行われました。当日はウォークラリーや、バザーなどたくさんイベントが行われました。

の助成申請を出していますが、「浚渫」が対象になっていませんでした。昨年度はそれが一部見直しになり、対象事業となることに変更されたのです。それにより工事費の7割が助成されましたので、自治会の出費は非常に少なくて済みました。

新年度は新たに、水路清掃などでの重労働の軽減として、一部を除いて水路から土砂の引き上げを機械力の導入をすることにしました。昨年までの参加者の強い意見があったので、何とし

ても改善しなくてはならないものでした。その費用についても環境整備費として計上しました。

また地域づくり行事への「協力金」の集金については、班長の負担を軽減することもあり、自治会費から所定の金額をまとめて拠出することになりました。年に3回はあった各家庭の直接負担はなくなりました。

昨年頑張った、地区対抗ラリー。今年の運動会へは、より積極的な参加を呼びかけました。

残念ながらオゴオリザクラの花は殆ど咲き終わってしまい、僅かに残った花を探すような状況でした。しかも、それまでの陽気とは打って変わった、寒い一日。しかも時折雨が降りつけるという厳しい天候になりました。

午後からは天気も少し回復してきましたが、春の一日とは思えないような天候の中、たくさんの人々が会場を訪れ、それぞれに楽しんでいました。

当地区の方々もたくさんの方が主催側で参加。ご苦労様でした。

上の写真は、新しくできた「新山具駅ターミナルパーク」の一面に植えられたオゴオリザクラの付近に設けられたウォークラリーのチェックポイント、若い人が目立ちました。